

【提出様式】 令和6年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 朝日小 学校

評価対象者数（人）			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
182	127	27	8

領域	豊島区教育 ビジョン 2019 基本方針等	評価 番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に 向けた 改善策				
				児童・生徒				保護者					地域					教職員					自己評価 概要	学校関係者 評価の意見	標 語	
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3	2	1					
I	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	I－1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。					59	43	10	1	14	7	1	0	0	19	5	2	1	・小中連携では道徳科を軸に、授業参観・協議をすすめる、授業力の向上を目指してきた。 ・保幼小連携として、サンライズフェスティバルを近隣5園を招待した。	・保幼小連携では、学校行事への参加を増やせると良い。 ・校長の来園は保護者に好評。学校生活への見通しがもてた。	B	・小中連携では、学校間接続を道徳科を中心に授業改善を引き続き取り組む。 ・幼児と児童が共に参加する行事の開催、授業体験の実施等を工夫し、保幼小の接続期における互恵性のある教育活動を充実させる。		
II	確かな 学力の育成	II－1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。					53	59	7	1	7	6	0	0	0	2	13	13	1	0	・児童が感じる「授業の分かりやすさ」は、肯定的評価が中間評価より2％増加で94％。保護者評価の「そう思う」が中間評価より10％減少だが、年間通じて88％以上の肯定的評価。 ・タブレット端末の活用は年間90％以上の児童が肯定的評価をしている。保護者評価は中間評価より5％増加。	・学習指導では、個人差への対応が大幅そうだが、引き続き指導を充実させてほしい。 ・算数少人数指導では、クラス編成で児童の希望はどのくらい反映されるのか。 ・AIの介入に備え、さらなる情報モラルの強化を希望する。	A	・個別最適な学びと協働的な学びを一体化した授業改善をより充実させる。 ・問題解決型授業の実施をはじめとした授業改善を継続する。児童の振り返りを生かした授業づくりに努める。基礎学力の定着を図るため、漢字・計算の力を向上させるためのサンライズタイムをより充実させる。 ・今後も情報活用能力の段階的指導・情報モラル指導をより充実・強化する。
		II－2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。						57	52	7	4	7	4	3	0	0	1	11	15	1	0				
III	豊かな 心の育成	III－1	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をととして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。						53	58	6	0	12	5	2	0	0	1	22	5	0	0	・「頑張りを先生が認めてくれた」と肯定的に捉えている児童が80％。道徳教育に関する校内研修を重ね、教員の意識向上につながった。 ・児童の学級満足度では、86％が「自分のクラスが好き」と回答。 ・保護者による自由記述では、生命との関わりの充実を希望する記述あり。	・学校行事は、保護者や地域の刺激になっている。 ・人間関係の変化の様子は、児童の登校の様子から感じることがある。 ・地域に児童がどれくらいいるのかが分からないので、可能な範囲で情報提供をしてほしい。	A	・道徳授業地区公開講座の参加意欲が高まる講演を考える必要がある。 ・生命を大切にする学習をより丁寧かつ充実させられる機会を増やせるよう意識していく。 ・生命（いのち）の安全教育の確実な実施を行い、他人との距離感やプライベートゾーンへの意識、SNSとの関わり方に関する理解と実践力を高める。
		III－2	学校は、生命を大切にする態度や思いやり、優しい心を育てている。						60	50	7	1	9	6	2	0	0	0	16	10	1	0				
IV	健やかな 体の育成	IV－1	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。						60	58	5	2	2	6	2	0	0	0	19	8	0	0	・「運動やスポーツするのが好き」との児童の肯定的評価は、年間通じて80％以上。保護者評価は中間評価より3％増加で93％。教職員評価「そう思う」の回答も9％増加。 ・児童の食に関する意識は中間評価より5％増加し、保護者評価は年間通じて90％の肯定的評価。給食のメニューには肯定的な記述が多かった。	・給食の「もぐもぐ通信」は、毎日発行されていて、よいので継続してほしい。 ・給食は、家庭で食べることが少ない食材を扱えているので、よい。	A	・多様な動きをつくる運動や体力を高める運動の授業改善、ウルトラタイムの工夫に努める。 ・旬の食材を題材にした食育指導を学級活動の時間等で継続する。また、栄養士による学校給食と教科教育を関連させる授業を積極的に実施する。 ・学校薬剤師など外部講師を活用した「くすり教育」などをより充実させる。
		IV－2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。						64	53	8	1	3	5	2	0	0	1	20	7	0	0				
V	一人一人を大切に する 教育の推進	V－1	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、早期対応）に学校全体で組織的に対応している。						43	46	12	2	24	4	1	0	0	3	21	6	0	0	・いじめに関する児童への質問でマイナス評価が前年度より6％減少。学校のいじめ防止等の対応に関する保護者の肯定的評価は中間評価より7％増加で70％。 ・児童にとって、気持ちを分かろうとしてくれた先生が存在が、中間評価より6％減少。保護者の肯定的評価は7％増加し、86％。 ・特別支援教育等への肯定的評価が他の項目より低く58％。「わからない」の回答は10％増加で31％。	・いじめ防止等に関する数値がよくなっているのはよい。 ・先生の言葉一つで、子供たちとのふれあいの深さや影響力が変わる。子供たちが笑顔で楽しく学校生活を過ごせるようにしてほしい。 ・6年生が1年生とよく関わっているのがよい。 ・先生のことを嫌いという声を聞かない。	A	・児童の個性、集団の成長過程への深い理解等しながら、丁寧な関わり・声掛けを重ねるよう努める。また、保護者との信頼関係づくりに努める。 ・学校いじめ基本方針の改訂を行うとともに、児童・保護者からの情報を確実に受け止め、迅速・的確な対応をより強化する。 ・特別支援教育に関する発信を増やすとともに、個人情報を守った上での情報発信の在り方を探っていく。
		V－2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。						53	58	10	2	6	3	3	0	0	2	20	7	0	0				
		V－3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。						31	43	10	4	39	4	2	0	0	2	18	9	0	0				
VI	教師力の向上と 魅力ある 学校づくり	VI－1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。						40	66	13	4	4	6	2	0	0	0	5	21	1	0	・秩序・落ち着きに関しては、保護者の肯定的評価が年間通じて83％以上。教職員評価では肯定的評価が中間評価より4％増加。 ・「先生がほめたり、励ましたりしてくれるか」の回答は、児童の93％が年間通じて肯定的評価。	・挨拶は、来客への挨拶ができるなど、具体的な場面を意識させるとよい。全体的には挨拶ができていと思う。	B	・年度や学期の始めには、朝日スタンダード、タブレット端末ルールに関する指導を丁寧に行う。「いけないことは、いけない」と粘り強く指導を行う。 ・年間を通じて、「言葉遣い」と「気持ちの切り替え」について、全校朝会で講話を重ねるなど、啓発を継続する。学校と家庭が一体となって、課題解決に取り組む。
		VI－2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。						39	52	11	1	24	5	3	0	0	0	20	7	0	0				
VII	家庭・地域との 連携	VII－1	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。						61	51	8	2	5	5	3	0	0	0	17	10	0	0	・児童と地域等の関わり度合いを示す質問では、肯定的評価が年間通じて69％と、他の項目と比較すると、割合が低い。 ・学校からの情報発信に関する保護者評価は中間評価より2％増加で88％。 ・児童は、年間を通じて90％以上が「地域は好き」と肯定的評価。	・学校、保護者、地域が一体となった取組を充実させたい。土曜公開を利用して、町会・保護者・児童が共同した取組をお願いしたい。町会としては、直接的に関われる機会が少ない。	B	・地域の教育資源や人と関わる学習を充実させるためのカリキュラム・マネジメントを推進する。 ・引き続き、学校ホームページの充実にも努める。 ・学校便りの発行時期について、保護者連絡ツール「すぐーる」の活用も含めて検討していく。 ・コミュニティ・スクールへの移行を意識して、学校・家庭・地域が一体となった教育の充実について、学校運営連絡協議会で議論を重ねる。
		VII－2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。						60	51	6	2	8	5	3	0	0	0	17	10	0	0				
VIII	特色ある 教育活動	VIII－1	学校は、SDGSに関する取り組みに関する教育を推進している。					63	49	4	0	11	7	1	0	0	0	18	9	0	0	・SDGsの取組の軸となる「朝日緑豊かプロジェクト」や「朝日心豊かプロジェクト」、伝統文化に触れる教育への期待は大きい。「体験活動の充実」には、保護者・教職員の評価とも95％以上の肯定的評価。	・地域に、大学等、教育環境に恵まれているので、接点を持ちながら進めている。	A	・朝日小におけるSDGsの取組は、「朝日緑豊かプロジェクト」や「朝日心豊かプロジェクト」、伝統文化に触れる教育に特色をもっていることをさらに周知し、理解を得られるよう努める。引き続き、地域や外部講師を活用した授業の実施、開拓に努める。	
IX	働き方改革	IX－1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。														14	11	2	0	・教職員評価は令和5・6年度とも肯定的評価89％だが、「そう思う」が17％から50％に増加。	・先生のやりたいことができる環境づくりが推進し、朝日小の特色を出せるようにしてほしい。	A	・授業時数確保と行事の精選に関する課題、働き方改革と業務量に関する課題、休憩時間をより確実に確保できる時程、勤務割振りの工夫、配布物のデジタル化を推進するためのツールの活用方法、不登校等の組織的な対応の教育課題の改善に努める。		

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある